

## 突然心停止の前兆への対応で生存率に差

突然心停止後の生存率は依然として低く、突然心停止の長期的リスクがある患者に対し、早期にリスクを層別化し、心停止を予防するための短期的アプローチが必要である。そこで本研究では、突然心停止の4週間前までの症状の特徴について調査し、それらの症状への対処により予後が改善するかを検討した。

米国北西部において集団ベース研究を実施し、839例が対象となった（平均年齢52.6歳、男性75%）。430例（51%）が胸痛や呼吸困難などの前兆を自覚しており、その93%が突然心停止発症前24時間以内に症状が再発していた。心停止前に救急連絡をしていたのは81例（19%）のみで、もともと心臓病の既往があったり、継続する胸痛のある患者であった。生存率は、前兆発現時に救急連絡をした者で32.1%、していない者で6.0%であった（ $P<0.001$ ）。

突然心停止には前兆がしばしば発現するが、ほとんどが見過ごされている。今回の結果から、前兆となる症状に救急医療を施行することで生存率が上昇することが明らかとなり、突然心停止に対する新たな短期的予防戦略が必要であることが示唆された。

出典：Annals of Internal Medicine. 2016; 164(1): 23-29